

とくジーのおまじない（3年）

板書の工夫

「振り返り」のアイコン。

何の発問に対するまとめなのかがわかるよう、言葉で明示したり、囲んで区別したりする。

あらかじめ、授業の中で重要な場面の挿絵や言葉を準備しておく。子どもたちは、「貼る」という行為だけでも注目する。特に挿絵を提示すると、それだけでその場面を想起できる。

教材名の提示。

子どもたちが特に大切だと意識した言葉は、傍線を引くなどして目立つようにする。

大事な場面は、目を引くよう、チョークの色や囲みの形を変えたり、アイコンを書いたりして工夫する。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号（アイコン）として提示できるものを用意するとよい。

板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のでびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「みんなは、誰に支えてもらっているかな」という投げかけをして、その反応を書き出す。【3～4分】

2 教科書を範読して、教材の道徳的な問題場面を確認する。子どもたちの発言の中の言葉を、子どもの思いをゆがめないよう注意しながら、キーワードとして抜き出す。教材の中の重要な場面や、子どもたちが大切なことに気づいた場面は目立つようにし、全員で共有できるようにする。【10分】

3 授業では、「わたし」から「とくじー」への言葉を、役割演技を取り入れ、考えさせる。その中で、子どもたちから出た言葉を板書する。書き出した内容によって、子どもたちがさらに考えを深められるよう意識し、適宜、確認のため読み返すようにする。【19分】

4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。交流の中で出る子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。振り返りは、自分たちを支えてくれている身近な人物への気持ちが表れる部分である。必ず交流の時間を確保し、考えが深められるようにしたい。【12分】

板書心得

●板書は、授業の軌跡であることはもちろんのこと、子どもの思考をサポートするものでなければならない。

言葉の使い方、記号や矢印の活用、色づかい、まとめりごとの区切りなど、子どもの思考をサポートすることを意識して示すようにする。

●子どもの中に違和感の残る言葉は使わない。

子どもたちの発言の中から言葉を拾い、キーワードとして示すときは、「これでいいかな?」「こういうことかな?」と、子どもたちの理解を確認しながら、示すようにする。教師がもっていきたい方向にまとめるようなことのないように気をつける。

●板書を書くときでも、子どもたちに背を向けないように配慮する。

どの教科でもいえることだが、板書をするときには、できるかぎり、子どもたちには教師の顔が見えるようにしておく。なるべく、子どもたちに背中だけを見せることがないように（完全に後ろを向くことがないように）する。子どもたちは、常に教師の表情や言動を気にしている。教師も、常に子どもたちの顔を見ていられるように心がけたい。